

朝日酒造の環境への取り組み

越島は縄文からの歴史に彩られ、

季節の移ろい豊かな土地。

その風土を愛し、

春夏秋冬と交歓し、

朝日酒造のこだわりの酒が

生まれます。

豊穰 良い米にこだわる

清冽 良い水にこだわる

佳境 良い環境にこだわる

もみじの里 づくり



朝日酒造の蔵に近い巴が丘に、「もみじ園」があります。ここは、地元の衆議院議員であった高橋九郎氏が迎賓館として造った「巴が丘山荘」にその歴史が始まります。その庭園に植えられたもみじはイロハカエデをはじめ様々な種類のもみじが巧みに配置され、秋の紅葉シーズンだけでなく四季折々の美しい景観を作っています。

朝日酒造は、平成元年に創立70周年を記念し、「もみじ園」内にある山荘の修復を実施しました。その後この美しい庭園の維持と、地域がもみじあふれる環境になることを目指して、この「もみじ園」から芽生えた苗木を採取し、自社の育苗園に移植して育てています。こうして育てた苗木は、地元の新中学生一人一人に贈られています。

ほたるの里 づくり



絵 新潟美術学園

長谷川朝子氏

朝日酒造は昭和59年自然環境の指標昆虫であるホタルの取組みを開始しました。

昭和61年に「越路町ホタルの会」が発足し、その事務局を朝日酒造内に設置しました。以来、ホタルの保護やホタルが生息しやすい環境づくりを地元の方々と協力しながら進め、平成元年には、その活動が新潟県全体に広がり、「新潟県ホタルの会」が発足。事務局を朝日酒造内に設置しました。「越路町ホタルの会」はその後さらに活動が広がり、町内各集落ごとにホタルの会が結成され、「こしじホタル連合会（現在の名称は「越路ホタルの会）」へと発展してきました。平成元年に越路町が「ふるさと生きものの里」として環境庁より認定されました。こうした会では、ホタル生息環境の保護活動や「こしじホタルまつり」などに取組んでいます。

財団法人

こしじ水と緑の会



洪海川にサケが遡上しました。

財団法人「こしじ水と緑の会」設立

平成13年、里山や水辺に代表される水と緑の身近な自然環境の保全活動や研究活動に対して助成、自ら環境保全に関する活動を行うことを目的とする朝日酒造が全面支援、全社員が会員となり、毎月一升瓶1本分の資金を寄付する環境保全活動を行っている県内15団体の個人・団体に活動助成を行う

こしじ水と緑の会事務所の近くを流れる洪海川に今年もサケが遡上しました。数は多くはありませんが、瀬で産卵している様子が観察できました。長い長い旅をしてきたサケたち。野性の本能が自分の生まれた場所に引き戻すのでしょうか。ここで生まれた子どもたちが旅に出て、また戻ってくるのが楽しみです。